

モバイルシンクライアントシステム

ミカサ商事が販売開始

特定認証キー

ドコモの携帯番号を利用

安全にデータやりとり

ミカサ商事（大阪府中央区島町2-4-12、中村公三郎社長）は、NTTドコモの携帯電話（FOMA）の電話番号をクライアント特定認証キーとして利用するモバイルシンクライアントシステム「FOM70D」の販売を開始した。ドコモの携帯電話とパソコンがあれば、FOMA網を介して、パソコンとデータセンター間で非常に安全にデータをやりとりできる。法人需要を開拓していく。導入費用は、1千人規模のシステム（サーバー、1千人分のOSキット）で約3200万円。

FOM70Dは、ソフトウェア開発したFOMA専用モジュールをウエア開発会社の応用電子（東京都品川区西五反田7-13-5、矢野正博社長）



が開発したFOMA専用モジュールをウエア開発会社の応用電子（東京都品川区西五反田7-13-5、矢野正博社長）が、FKEYモバイルシンクライアント製品の製造・販売元となり、NTTドコモが同製品を買い取り、ミ

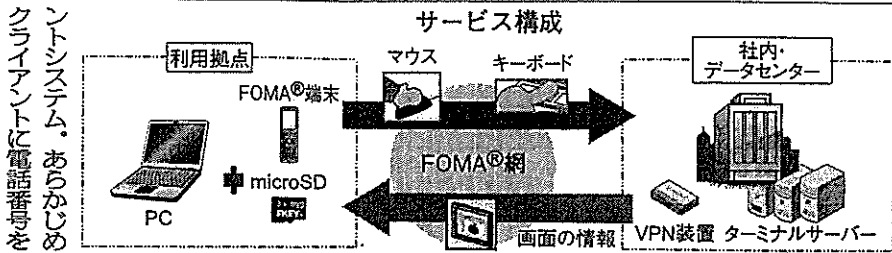
カサ商事がNTTドコモから仕入れ、モバイルシンクライアントシステムに仕上げて販売する。

法人向けに積極拡販

中村社長は「法人向けに非常に安全で使い勝手のよい、どこにいてもオフィス

と同じ環境で仕事ができるモバイルシンクライアントシステムだ。在宅勤務が増える中で、積極的に拡販していく」と話している。

FOMAの携帯電話番号を、クライアントを特定する認証キーに利用する業界初の電話番号認証機能を備えたモバイルシンクライアントシステム。あらかじめクライアントに電話番号を



設定し、クライアントのログイン時にパソコンに接続した携帯電話と設定番号を照合。電話番号が一致していれば、ログインできる仕組みを取り入れ、非常に高いセキュリティを実現した。

FOMA専用FKEY OSキット（税別価格3万5千円）を使って、FKEY OSを格納したmicroSDをFOMA内に挿入し、そこからパソコンを起動する。携帯電話内蔵の専用通信ケーブル（税別価格2千円）にmicroSDを挿入し、その専用通信ケーブルからパソコンを起動する。専用ケーブル「ケーブルフットタイプ」を用意した。

携帯電話向けのデータ圧縮技術により、処理速度の

違和感なく、モバイルシンクライアントサービスを利用できる。アクセス回線はFOMAのほか、Wi-Fi、イーサネットの3種類を利用可能。FOMAのマルチアクセス機能により、データ通信中でも携帯電話が使える。別売のFKEY OS専用端末を使えば、今回の専用クライアントとして利用できる。

年内にLTEに対応

今回のFOM70D対応FOMAは、現在市販されているFOMAの約8割とFOMA専用データカード4機種、年内にLTEデータカード「クロッシィ」USBタイプ2機種に対応。来年3月までに、FOMAスマートフォン、LTE携帯電話「クロッシィ」秋・冬モデルに対応する。